



「教育実践研究の成果」を更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます！

<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学大学院教育学研究科研究年報
オンラインISSN 2432-924X

- 小原幸義・鈴木久米男・佐藤進・村田和代(2023) 中学校における働き方改革の促進を図るための手立て：管理職や教員の認識の実態を踏まえた業務改善への提案
- 菅原裕子・柴垣登(2023) 重度重複障害児のキャリア教育についての考察：先行研究と授業実践報告の検討から他14編掲載、教育学研究科研究年報 第7巻



問合先：岩手大学教育学部

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujim@iwate-u.ac.jp URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

専門実習を終えて

授業力開発プログラム
現職 M2 芦澤 信吾



4月から5月にかけて行われた「学校マネジメント力開発実習」では、新任指導主事研修会への参加や県教育委員会でのシャドウイング等、教職大学院でなければ経験できない貴重な学修の機会をいただきました。そこでは、教育行政に携わる方々が国や県の施策を具現化するためにどれほど尽力されているのか、その一端に触れることができました。今後は、子どもたちの未来のために教育行政と学校現場が協力しながら、それぞれの力を発揮するために両者の思いをつなぐ役割を担えるよう、努力してまいります。



授業力開発プログラム
学卒 M2 高橋 瑞輝

5月の下旬に連携協力校にて、授業力・子ども支援力開発実習を行いました。私は、自らが目指すものとして設定した「子どもの発言をつなぐ授業」や「ICTを活用した授業」を意識しながら授業実践し、成果や課題を多く得ることができました。また、子ども支援の観点から、漢字の「読み/書き」に苦手さのある児童を支援する中で、集団指導の中でどのように学びを保障していくかについて考える機会となりました。

教育実践研究・中間発表会

中間発表会に向けて



学校マネジメント力開発プログラム
現職 M2 小野 靖子

今年度は8月11日(金)にM2中間発表会が行われます。「理論と実践の往還」を深める教職大学院の学びの中で、院生は各自テーマを設定して教育実践研究に取り組みます。中間発表会は、今後の研究の方針となるご指導・ご意見を頂ける貴重な機会になることから、これまでの教職実践研究が明確に伝えられるよう準備に努めています。

中間発表会に向けて



授業力開発プログラム
学卒 M2 志和 孝洋

私は、「複式学級におけるゴール型の授業づくり」をテーマに研究を進めています。昨年度の地域教育実習で複式学級の授業を行ったことをきっかけにテーマを設定しました。中間発表会は、研究の進捗状況を発表し、たくさんの方々から質問・意見を頂くことで研究をより良くするための機会です。有意義な意見交換を行い、岩手の教育に少しでも資する教職実践研究をさらに進めていきたいと考えます。

授業力開発プログラム
現職 M1 橋本 淳史



教職大学院の日々



授業力開発プログラム
学卒 M1 田中 秀幸

教職大学院では、研究者教員、実務家教員の講義から学ぶ理論と、今までの教職経験や連携協力校での実践を通して、理論と実践を往還しながら学んでいます。現職院生は、今までの教職経験を振り返りながら、学卒院生との協働を通して、今後の教育現場への還元という視点をもち、学修を深めています。経験や校種、年齢の違う方々との学びから教育に関する視野を広げる機会となっています。

教職大学院では、日々たくさんの方の学ばせていただいています。普段の講義や院生室では、学卒院生だけでは気づくことができない視点からのご意見をいただくことが多くあり、自分自身の実践を深めることにつながっています。これからも、現職院生とともに学ぶことで、学校現場で課題になっていることや、実践されていることについてさらに学んでいきたいと考えています。



教育学研究科教員 メッセージ

実務家教員 川上 圭一



本教職大学院は、2016年(平成28年)に開設以来、修了生は100名を超えました。修了生が、本県教育界に留まらず、全国の各学校や教育行政の最前線で活躍していることは嬉しい限りです。

本教職大学院が開設されてからわずか数年の間にも、コミュニティスクール制度の本格導入、新学習指導要領による小学校におけるプログラミング教育の実施、ICT教育・GIGAスクール構想の進展、令和の日本型学校教育の構築など次々に教育改革が進められています。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大は、学校教育に非常に大きな影響と変革をもたらしました。

「学び続ける教師」が叫ばれて久しいのですが、いままさに「教師が学び続けなければならない時代」が到来していることを実感しています。本教職大学院は、理論と実践を融合(往還)して、新時代の教育に挑むべく、学卒院生と現職院生同士が触れ合いながら研鑽を積み重ねています。院生の学びの深まりを大いに期待しています。